

# SDGsに関する教職員・学生アンケート 調査報告書について

問い合わせ先：

- ・宮國（SDGs推進室 業務・ガバナンスWG座長）  
Email：kaorukom@grs.u-ryukyu.ac.jp
- ・羽賀（研究推進機構 特命教授）  
Email：f-haga@cs.u-ryukyu.ac.jp
- ・山田（総合企画戦略部 経営戦略課 課長代理）  
TEL：098-895-8024  
Email：ksdairi@acs.u-ryukyu.ac.jp

## ●SDGs（持続可能な開発目標）とは・・・

すべての人々にとってよりよい、より持続可能な未来を築くための青写真です。貧困や不平等、気候変動、環境劣化、繁栄、平和と公正など、私たちが直面するグローバルな諸課題の解決を目指します。SDGsの目標は相互に関連しています。誰一人置き去りにしないために、2030年までに各目標・ターゲットを達成することが重要です。

【出典：国際連合広報センター】

本学では、第4期中期目標・中期計画において、教育・研究等活動におけるSDGsの取組の推進と島嶼地域の課題解決に向けた多様なステークホルダーとの連携・協働を掲げており、これらをスムーズに進めていくためには、何よりも教職員及び学生のSDGsに関する意識啓発（自分ごと化）と自発的アクションを促していくことが求められます。

## ●調査目的

SDGs持続可能な開発目標への取組みについて、教職員・学生の理解、考えや実践等のアンケートを行うことで、本学でのSDGs活動のチェックを行い、改善しながらSDGs達成に貢献することを目的として実施しました。

## ●調査実施日

2022年11月8日～11月25日（教職員） | 2022年9月26日～10月31日（学部学生）  
| 2022年9月26日～10月17日（大学院学生）

## ●調査対象者

教員（常勤・非常勤）回答者数：194人、職員（常勤・非常勤）回答者数：341人  
学部学生 回答者数：3,706人、大学院学生 回答者数：642人

## ●調査方法

教職員・学生対象にWeb形式にてアンケートを実施しました。

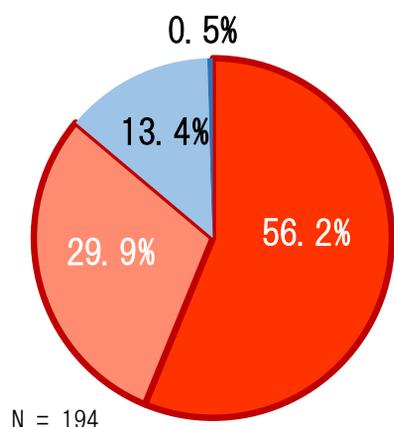
# 教職員のSDGsの理解度

教員・職員

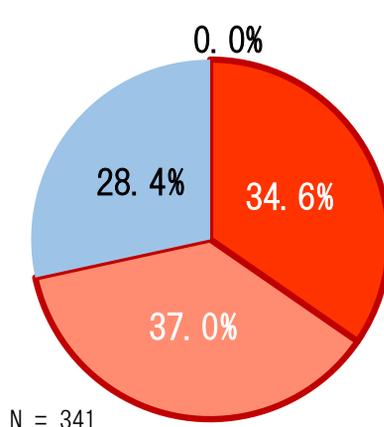
「SDGsの理解度」は、教員が9割弱と高く、職員は7割と高い結果となりました。

内容は理解し、アクションを行っているが、教員は6割弱で高く、職員は4割弱と低くなります。セミナーやワークショップ等で視野を広げるなど「自分ごと」への認識を高める取組みは重要です。

- 内容を理解し、アクションを行っている
- 内容を理解しているが、アクションを行っていない
- 見聞きはしているが、内容までは理解していない
- 存在を知らない（今回のアンケートで初めて聞いた）



教員



職員

## 【内容の理解割合】

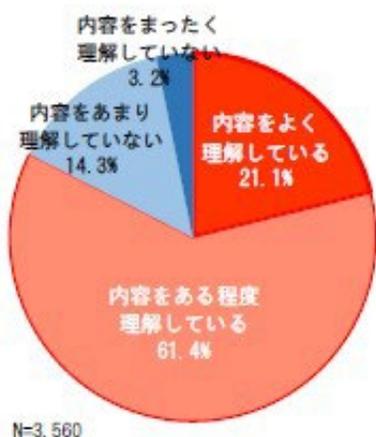
理解している  
 教員 86.1%  
 職員 71.6%

理解していない  
 教員 13.9%  
 職員 28.4%

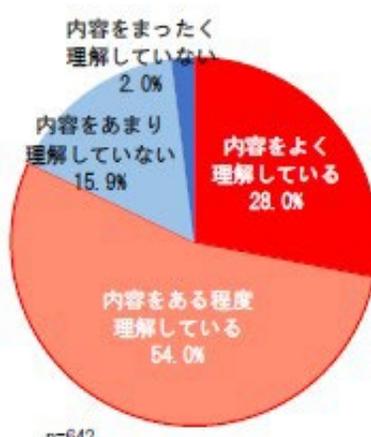
# 学生のSDGsの理解度

学部学生・大学院学生

「SDGsの理解度」は、学部学生・大学院学生共に8割以上の理解度が高く、大学の授業や課外活動等でSDGsを学ぶ・知る機会があると考えられます。



学部学生



大学院学生

## 【内容の理解割合】

理解している  
 学部学生 82.5%  
 大学院学生 82.0%

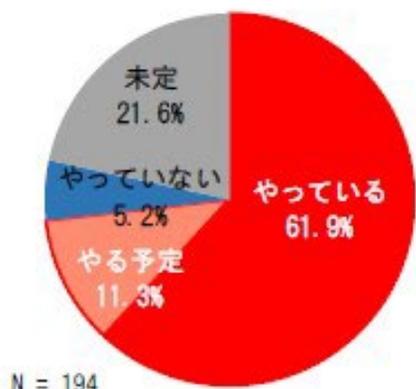
理解していない  
 学部学生 17.5%  
 大学院学生 17.9%

# 課題解決の取組み

教員・職員

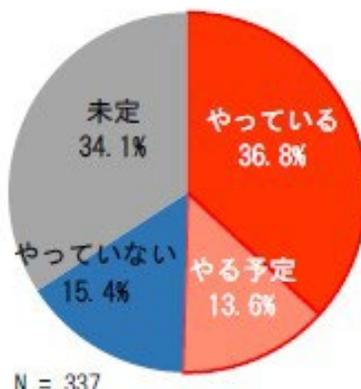
「業務または日常生活を通じた社会課題解決の取組み」は、教員が6割、職員が4割弱と取組みをしている割合に開きがありました。

教職員の結果から、役割の違いが取組割合と関連していると想定されますが、大学内では様々な役割がSDGsの目標と結びつくため、職員など教育カリキュラムなどによる訴求も重要です。



N = 194

教員



N = 337

職員

## 【課題解決取組みの割合】

取組みをやっている

(予定含む)

教員 73.2%

職員 50.4%

取組みをやっていない

教員 5.2%

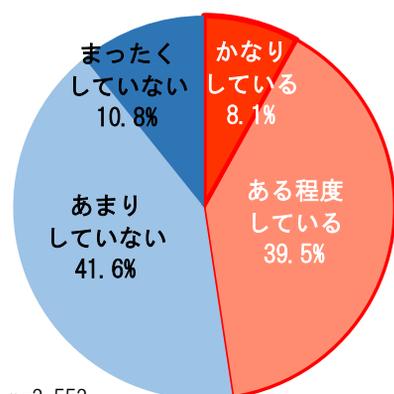
職員 15.4%

# 課題解決の取組み

学部学生・大学院学生

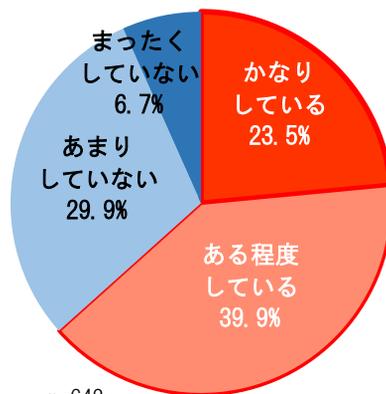
「SDGsの課題解決の取組み」は、大学院学生が6割弱、学部学生が4割強、そのうち「かなりしている」は、大学院学生が学部学生より15.4ポイント高くなっています。

大学院学生では、研究テーマが細分化し、より具体的に課題へアプローチするためSDGs達成を強く意識する機会が多くなること、海外留学生との接点、外部機関等の研究連携などの機会が多く、SDGsに対し馴染み深い状況がうかがえます。



n=3, 553

学部学生



n=642

大学院学生

## 【課題解決の取組み割合】

取組みをしている

学部学生 47.6%

大学院学生 63.4%

取組みをしていない

学部学生 52.4%

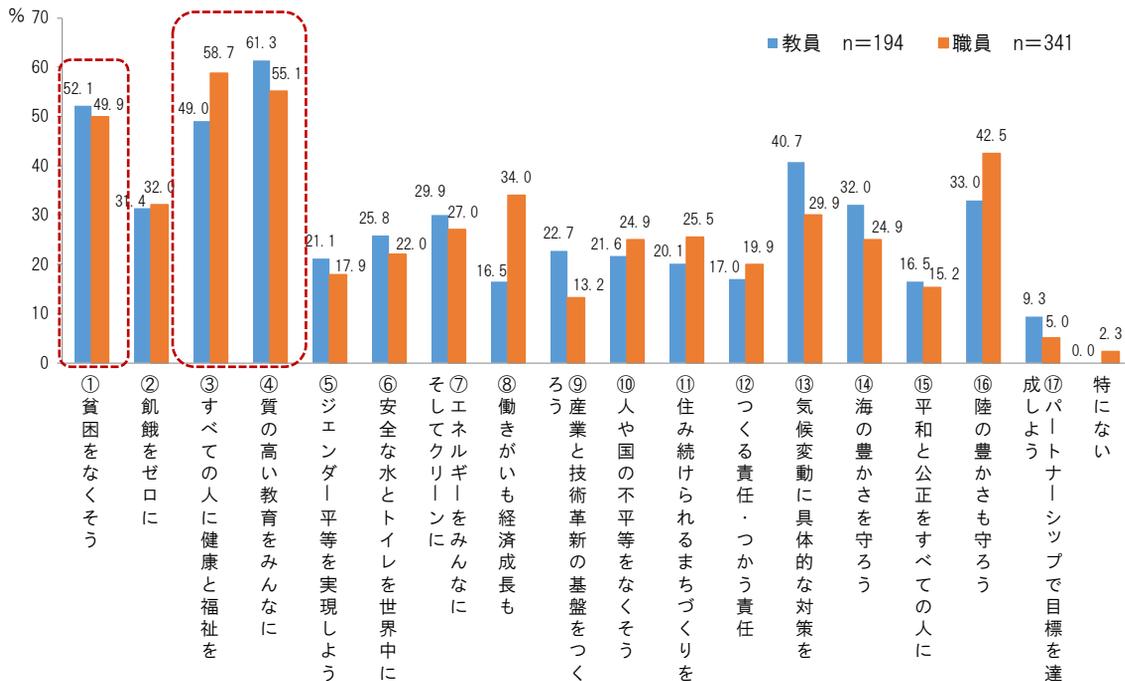
大学院学生 36.6%

# 重点的に取り組むべき目標

教員・職員

## ①SDGs17の目標で特に重要であると思う目標（複数回答）

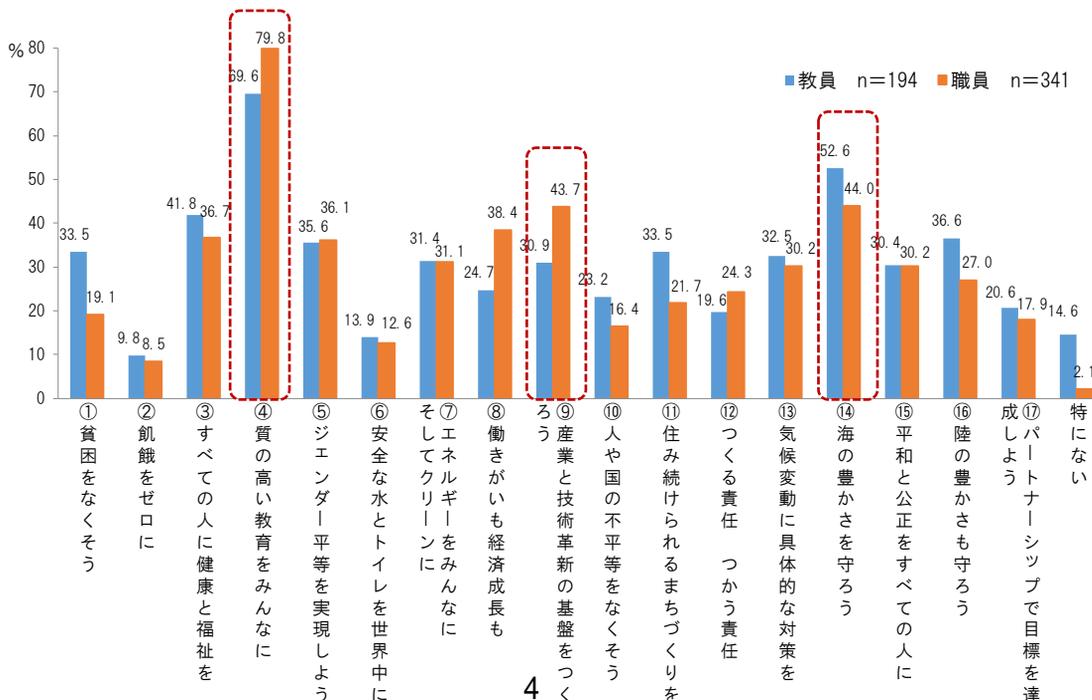
教職員共に「④質の高い教育をみんなに」が6割前後で最も高く、職員では「③すべての人に健康と福祉を」が続きます。「⑧働きがいも経済成長も」では教員より職員が17.5ポイント高くなります。全体的に重要性は教職員共に連動しますが、役割によって重要度の相違があります。



## ②SDGs17の目標で琉球大学が特に取り組むべきだと思う目標（複数回答）

教職員共に、「④質の高い教育をみんなに」が上位になっています。

亜熱帯の島嶼に位置する本学の特長となる「⑭海の豊かさを守ろう」が教員では52.6%、職員で44.0%と上位です。一方、「①貧困をなくそう」が教員は職員より14.4ポイント高く、職員について沖縄の貧困問題へのアクションなど教職員が横断的に取り組むことも大切です。



開催日時：令和5年9月11日(月) 10時～12時  
場 所：文系講義棟2階 215教室  
開催方法：対面開催、参加者数：40名（教員：10名、職員：30名）

## <プログラム>

10：00

【第一部】 SDGsに関する教職員・学生アンケート調査報告書及びTHE大学インパクトランキング2023の結果について

発表者：宮國 薫子（SDGs推進室 業務・ガバナンスWG座長、国際地域創造学部 准教授）

10：30

【第二部】カーボンニュートラル関連ワークショップ

ファシリテーター：眞榮平 孝裕（SDGs推進室 カーボンニュートラル推進チーム長、理学部 教授）

大島 順子（国際地域創造学部 准教授）

取組紹介①：眞榮平 孝裕（SDGs推進室 カーボンニュートラル推進チーム長、理学部 教授）

取組紹介②：與那 篤史（工学部 准教授）

取組紹介③：岡本 牧子（教育学部 教授）

11：30

【第三部】グループ発表及び総括

ファシリテーター：羽賀 史浩（研究推進機構 共創拠点運営部門特命教授）

